



日刊紙に掲載されたブリザード名「なとりし」

昭和気象より猛地吹雪、ブリザード(表1参照)と認定されると、当日の新聞記者に命名権が与えられます。48次隊での今期2番目(No 4802)のブリザードに私が当たり、郷土愛を思い「なとりし」と命名しました。これまで年平均20回ほど認定され、その名は歴代残るようです。

南極の自然は近代化された基地であっても、50年前の自然と何ら変わっておりません。安全重視で、もちろんこの時は隊員へ外出注意や禁止令が出されます。

そのほか、生活部にはいろいろな係があり、夏季期間には「昭和の湯」露天風呂も開かれました。パー係(火、木、土開店)レクレーション係、ホームページ係、農協係(もやしなど野菜を促成栽培)漁業係(釣りによる現地調達???)アマチュア無線係など、隊員全員が参加しエンジョイされています。もちろん多様な観測業務などの余暇時間として活動しています。

表1 ブリザードの定義(南極昭和基地のみ定義)

	視程	風速	継続時間
A級	100m未満	25m/秒以上	6時間以上
B級	1km未満	15m/秒以上	12時間以上
C級	1km未満	10m/秒以上	6時間以上

すべての条件が満たされた場合のみ認定される。



6月15日(金)には相互台小学校で「朝日南極教室」(朝日新聞社、国立極地研究所共催)が行われ、南極・昭和基地と相互台小学校の児童たちが、衛星テレビ電話で交信しました。(スクリーン右側が若生さん)

平成十八年度名取市中学生海外派遣事業 友情は太平洋を越えて

三月二十五日(日)〜四月四日(水)の日程で平成十八年度名取市中学生海外派遣事業が実施され、二十二人の中学生たちがカナダ、ブリティッシュコロンビア州スーク市で五泊六日のホームステイを体験しました。

中学生海外派遣事業とは

「名取市中学生海外派遣事業」は、国際性豊かな人材の育成を目的として行われている事業で、平成三年度から市内在住の中学生二年生を対象に実施されています。

毎年、カナダとオーストラリアの中学校を交互に訪問していますが、今年の訪問国はカナダです。二十二人の派遣団員たちは、カナダの西海岸、バンクーバー島南西部に位置する、スーク市のジャーニー・ミドルスクールを訪ね、現地のご家庭に五泊六日の間、家族の一員として迎えられる予定です。

伝統的交流

名取市からジャーニー校を訪問するのは今回が三度目で、ジャーニー校からも過去三回にわたり生徒たちが名取市を訪問しています。

ジャーニー校で交流事業を担当するパット・スウィンパーソン先生は、私たちのためのお別れパーティーのあいさつで「もはや私たちの交流はトラディショナル(伝統的な)ものになりました」と表現していました。

この言葉のとおり、訪問中には、以前名取市でホームステイしたジャーニー校の生徒が、自分のホストファミリーだった名取の生徒や随員に会いに来たり、事務局員が町で「名取から来た人だよな?僕も去年、名取に行ったけど覚えてる?」と話しかけられるなど、ジャーニー校と名取市の交流がしっかりと根付いていることが感じられました。

私たちのミッション(使命)

派遣されるにあたって、名取市の生徒たちは「自分がカナダに行ったらなに



あいさつ代わりにタッチで感謝と友情を交わす。「ありがとう、また会おう!」

を達成したいか」という目標を決めて行きました。この目標を団員たちは「ミッション(使命)」と呼んでいます。

ミッションの内容は「日本食を作って食べてもらう」「カナダのことを知る」「友達を百人作る!」などさまざまです。団員たちは短いホーム

ステイ期間、また、言葉も思うように通じない環境の中で、何とか自分のミッションを達成しようと頑張っていました。

ミッションの結果は「日本の食べ物を喜んでくれた!」という団員もいれば「詳しくカナダのことを知ることができなかった」という団員も生徒もいま

じょうほう 掲示板 国際交流ボランティアグループ 「ともだち in 名取」自主企画講座 「名取の“まつり”と国際交流」

日程 8月4日(土) 午後1時30分~9時30分
(雨天時は5日(日))
8月16日(木) 午前10時~午後2時
10月14日(日) 午後1時~16時
1月14日(月) 午後6時~8時

定員 20人 **受講料** 2,000円(幼児無料/小中学生は1000円 保護者の参加が必要です。このほかにも実費負担があります) **申し込み** 名取市教育委員会生涯学習課(市役所6階内線635) **募集期間** 7月9日(月)10時~18日(水)(定員になり次第締め切り)

詳しくはともだちin名取ホームページ
(<http://blog.canpan.info/tomonatori/>)

または広報なとり7月1日号をご覧ください。

交流の情報を教えてください!

「今度、留学生がくるのだけど...」「こんなところ/活動を海外の人にも紹介したい」など、色々な情報を随時募集し

ています。また「日本語を教えてみたい」「外国のことを知りたい」「事務や託児などなら手伝えるかな?」...など、一緒に活動してくれる人も募集中です。

連絡は tomodachi_in_natori@yahoo.co.jp または FAX022(386)1338(事務長宅)まで。

今号もなとり国際交流ニュースレターをお読みいただきありがとうございました。このニュースレターは「名取市国際交流協力者」に登録している皆さんに毎号郵送しているほか、公民館などにも配布しています。

また、国際交流に関わっている方たちのお知らせなども随時受け付けています。

お気軽に下記までご相談ください。

【問い合わせ先】

〒981-1292 名取市増田字柳田 80
名取市総務部総務課広報聴係
電話384-2111内線317・327
FAX384-9030

純白の大陸で 越冬生活



第48次南極地域観測隊 若生公郎さん(相互台) からの南極だより

名取市の皆さん、こんにちは、昨年11月下旬に日本を出発し、夢の大陸南極へ憧れと不安を抱いた暴風圏越えの往路の船旅。初氷山、オーロラ、ペンギン、飛び込む自然の景観に感動し12月下旬に昭和基地に着任し、時の流れは早いもので6カ月が過ぎました。

昭和に着いた夏の間は太陽の沈まない白夜でしたが、季節は変わり夜が出現するとオーロラ観測が始まりました。夜間は高感度カメラによる観測へ影響を与えないようにと、灯火管制が布かれます。

日照時間の短縮と共にいよいよ冬の訪れ、5月下旬より40日間の太陽の出ない極夜に入ります。太陽の出ない24時間は初体験、どのような1日になるのか非常に興味があります。日本と反対に夏至は南半球では冬至にあたり、基地では4日間のミッドウインター祭が行われ、今その準備が行われています。南極の諸外国基地でもこの様な行事が行われているようです。

また、そのほかの行事としてレクリエーション係企画

のいろいろな行事が行われています。本格的なブルーシートを敷いてのお花見会、ひな祭り、こどもの日や各隊員の誕生日会など、休日には運動不足解消に氷上スポーツ大会が行われます。サッカー、ソフトボール、目隠しバレーボールやドッジボール大会などが行われています。居住棟ごとにチームを編成し、ユニホーム、優勝旗も手作り、チーム名もユニークな名前が付けられ、皆さん小学校以来のゲームとか、長靴を履いての氷上でのハッスルプレイに汗を流します。限られた基地内での運動不足解消に、笑いがあり健康的で非常に効果的です。

基地では閉鎖社会のマナー化を防ぐため、さまざまな催しが企画されています。その中には、隊員が交代で編集記者になって発行する日刊新聞「よんばちにゅーす」があります。その日々の日誌代わりになるもので歴代の新聞が保存されており、10年前、20年前の出来事を検証することが出来ます。(4ページ目に続く)



オーロラの季節(写真提供 永島隊員)



氷上ドッジボール大会

したが、この海外派遣事業では「やってみる」と「経験してみる」と「価値があります。ミッションを達成できた生徒もそうできなかった生徒も、この経験を生かして、今後大きく飛躍するでしょう。」
カナダの生徒は自由?
ホストファミリーに初めて会ったとき、ジャニー校の生徒たちがとても大人っぽいのに驚いた団員たちも少なくなかったようです。

見た目で言えば制服が無い、化粧をしたり髪を染めたりしている、など。学校自体も各教室、担任の先生の思い思いに飾られており、机も自由に並べられています。
また、先生方も個性あふれる方が多く、特に校長先生は、昼休みに生徒たちと外でフットボールをしたり、朝の放送でラジオのDJのように全校生徒に語りかけたりと、明るく活動的な方でした。

「カナダの生徒たちの自由の裏には「自己責任」という考え方がセットになっている、という現実もあります。例えば、ジャニー校から名取に訪問団がやってくる際の費用は、ほとんど自己負担です。多くの生徒は家のお手伝いなどをして、その費用を貯めるとか。
また、パーティでビュッフェ式の食事を取る順番

も、日本なら「子どもから」となることが多いと思いますが、カナダでは「大人のゲスト優先」でした。日本ほど「子どもだから仕方がない」というような感覚はないようです。
もう一つ、これは二年前の派遣事業でカナダと日本の違いを感じた出来事
言葉は通じなくとも、少しの英語と身振り手振りで、生徒たちは仲良しに。
ですが紹介します。
午後からプールに行く予定のあった朝に、ホストブラザーの一人が水着を忘れてきてしまいました。
お母さんも行事に参加していたので、随行した名取の大人たちは「きつとお母さんが家に取りに帰るのだから」と思っていたそうです。ところがお母さんは「水着を忘れたあなたが悪いのだから」と言ってきたり、家には戻りませんでした。結局その日の午後、ホストブラザーはプールサイドでぼつんと見学をしていました。
自由だけれども自己責任が基本のカナダ、規則は沢山あるけれど丁寧な面倒を見てくれる日本。皆さんならどちらがいいでしょうか?

一番心に残ったことは、「ホームステイ!」
ホームステイの前後にはバンクーバーや州都ビクトリア周辺の見学もした団員たちですが「今回の海外派遣事業で一番心に残ったことは?」の問いで「一番多かった答えはやはり「ホームステイ」でした。カナダの家庭にお世話になることで、少なからずカルチャーショックを受けた団員もいたようですが、振り返ってみれば一番の思い出は人との交流。きつとこの思い出は、団員たちにとって一生の宝物になるでしょう。」
平成十九年度の派遣先はオーストラリアを予定しています。今年度はどんなドラマが生まれるのか、乞うご期待です。

平成18年度
名取市中学生海外派遣事業
写真展のお知らせ
日にち 6/27(水)~7/12(木)
準備 6/26(火) 撤去 7/13(金)
場所 名取駅東西自由通路
「ウイングロード」展示ケース内



教室の様子。教室内の飾りや机の並べ方は担任の先生の自由です。



名取からの訪問にあわせて、日本について学習をしていたクラスも。



ある日の昼食は自分で焼いたソーセージでホットドッグ。